

2022年度 須磨学園夙川中学校入学試験

国 語

第 2 回

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

1. すべての問題を解答しなさい。
2. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
3. 字数制限のある問題については、記号、句読点も1字と数えること。
4. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

1 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。

感染症の制御は、個人レベルと集団レベルで分けて考える必要があります。個人レベルとしては手洗いやマスクといった予防と治療薬です。そして、ワクチンは、個人レベルと集団レベルの両方を目的とするものです。

ワクチンはもちろん個人の感染を抑えるのですが、特定の病原体に対して、ある程度以上の割合の人が免疫能を持つようになると、爆発的な感染はおこらなくなります。その感染症にかかることのできる人が少なくなるのですから、当然です。病気によりませんが、おおよそ60〜70%の人が免疫能を持つと、そのIは守られると考えられています。このように、ワクチンは個人防衛だけでなく、集団防衛の意味合いもあるわけです。

個人ではなくて、集団における病気についての学問が「疫学」です。広辞苑を引いてみると「疾病・事故・健康状態について、地域・職域などの多数集団を対象とし、その原因や発生条件を統計的に明らかにする学問。疫病の流行ヨウタイを研究する学問としてホツソク」と書いてあります。疫病とは伝染病のことですから、もともとは感染症——具体的には19世紀中頃にあったロンドンでのコレラ大流行——の研究から始まった学問です。

それはジョン・スノウという一人の医師の大活躍でした。当時、コレラの原因はわかっておらず、瘴気（悪い空気）によるという考えが一般的でした。そんな中、スノウは、どの地域でコレラの患者が出たかの「感染地図」を作ります。その地図をにらんで、瘴気などではなく、ある井戸を使っていることがコレラ感染の原因であることを突き止めます。そして、その井戸の使用をやめた

ら、コレラ患者の発生が激減しました。これが疫学の始まりです。もうひとつ、「公衆衛生」という分野があります。個人ではなくて集団の健康を向上させるためのさまざまな活動をおこなう分野のことで、疫学はそのために重要な方法のひとつです。残念ながら、日本では、疫学や公衆衛生学があまり盛んではありません。

アメリカなどでは、公衆衛生の大学院がたくさんあるのに対して、日本では数えるほどしかないのです。当然、専門とする人が少ない。なので、どうしても守備範囲が広がらないし、レベルを高くするのも難しい、ということになります。

今回の新型コロナウイルス禍を契機に、公衆衛生や疫学の重要性が認識され、より多くの人材育成がなされることを望みたいところではあります。感染症以外の病気でも、IIの健康を向上させるような活動はたくさんあるのですから、公衆衛生は新興感染症とは切り離しても重要な分野です。みんなも、こういう分野があるということを知っておいてください。

大阪大学医学部で同級生だった関西大学の高島毛敏雄教授が、「新型コロナウイルス、日本独自戦略の背景に結核との闘い対策の力」『保健所』の歴史から見えるもの」というタイトルの文章で、面白い指摘をしています。日本で新型コロナウイルスの感染をかなりうまく押さえ込んだのは、保健所と保健師のおかげではないかということです。

結核という病気の名前を聞いたことあるでしょうか。結核菌と

いう細菌による呼吸器感染症で、かつて日本では「国民病」として恐れられました。1909年から50年の40年間、毎年10万人以上が結核で亡くなったといえるのですから、新型コロナウイルスなどまったく比較にならないすごい数です。

十分であったかどうかを問う声もありますが、新型コロナウイルスの検査で最前線の窓口になったのは保健所でした。保健所は、国民の健康相談の機関として1937年に設置されたものです。

それと同時に保健婦（現在の保健師）の制度も公的に認められています。結核に対する最初の特効薬ストレプトマイシンが発見されたのが1943年、日本でのリョウサン体制が整ったのが1950年代ですから、まともな治療法などまったくない時代でした。

高島毛先生によると、結核対策に取り組んだ歴史を持つ保健所と保健婦という日本独自のシステムが、今回の新型コロナウイルス感染症で功を奏したのではないかといいています。確かに、もし保健所がなかったら、どこが窓口になっていたのでしょうか。それに、原因はわかっているけれど、治療法がない。昔の結核と今の新型コロナウイルスの状況は似ていますから、なんとなく納得させられます。

しかし、その保健所も、効率が悪すぎる、無駄ではないか、という理由から、行政カイカクの対象となってどんどん減らされ、以前に比べると、いまではほぼ半減しています。削減しておいて完全に役割をこなせというのは、ちょっと無理な相談ではないかという気がしますが、それでも、新型コロナウイルスのような

ざという時には、その機能を十分に発揮することが要求されます。では、どうすればいいのでしょうか。

ここでも、感染症専門の医師についてと同様、平常時とパンデミックの時に必要な人員の数というのは相当に違ってくる。普段から、パンデミックの時に十分な人員を保健所に配置しておくと、というのは難しいでしょう。というよりも、無駄と言わざるを得ません。もし配置されたら、普段はきつと用事がなくて暇でたまらないはずで

感染症を専門とする医師の育成のところで書いたのと同じく、ここでもダブルメジャーはどうでしょう。ふたつめの専門としての保健所業務というのは可能ですし、それほど難しくはないはずです。保健衛生についてのきちんとした教育を受けてもらい、いざという時のために研修を定期的にうけていけば、対処できるはず

もうひとつ、高島毛先生の「感染症に強い社会とは、国に依存しなくても、医療に依存しなくても、専門家に依存しなくても、実現できるものではありません。社会全体で立ち向かう体制をつくることにあります。それは、自治体と住民とが協働の公衆衛生体制を持てるかどうかにかかっています」という指摘はとても重要です。

ともすれば、一般の人たちは国や地方自治体の責任を問う、病院や医師まかせになりがちです。しかし、パンデミックの時に重要なのは、社会の構成員である我々ひとりひとりがどう考えてどう行動するかです。これは大人だけではなくて、子どももそうで

本文は、裏面に続きます。

す。その結果が、パンデミックを抑え込めるかどうかを大きく左右するのですから。

(仲野徹「人生100年時代、ポストコロナはダブルメジャーで」による)

注1 免疫能 : 体内に病原菌や異物が侵入しても、それに抵抗し、体を守る能力・機能。

注2 新型コロナウイルス禍 : 新型コロナウイルスが招いた危機的状況のこと。

注3 契機 : ものごとを引き起こす、原因またはきっかけ。

注4 新興感染症 : それまで知られていなかった細菌やウイルスによる感染症。

注5 パンデミック : 感染爆発。感染症が世界的に大流行すること。

注6 感染症を専門とする医師の育成のところで書いたのと同じく : 筆者は、日本では感染症の専門医が少なく、パンデミックの際に対応できないため、平常時から、研修やトレーニングをして、感染症を専門としていなくても感染症も診ることが出来る医師を育成した方がよいと、この前の文章で述べている。「ダブル」は「二つの」という意味であり、「メジャー」は「専門」という意味である。

一の設問

問一 線部X・Yの言葉はどのような意味として使われていますか。最も適当なものを、後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

X 引いて

- 1 連れだす。
- 2 手前に動かす。
- 3 探し出す。
- 4 延べ広げる。
- 5 例をあげる。

Y 問い

- 1 疑問をなげかける。
- 2 追及する。
- 3 取り上げる。
- 4 結果を求める。
- 5 改めて試す。

問二

I・IIには、同じ言葉が入ります。二つの空欄に当てはまる最も適当な言葉を、本文から漢字二字で書き抜きなさい。

問三

「疫学」(線部ア)とありますが、「疫学」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「疫学」は、病気や健康状態について、その流行の傾向や実態を研究するところから始まった学問だが、日本では「疫学」はあまり盛んではない。
- 2 「疫学」は、新型コロナウイルスの蔓延をきっかけとして、その重要性が認識され、その分野のより多くの人材の育成が世界で望まれるようになった。
- 3 「疫学」は、「公衆衛生」という分野を支える方法の一つで、感染症などの個人レベルの病気の原因や発生条件を統計的に明らかにする学問のことである。
- 4 「疫学」は、ジョン・スノウという医者によって提唱され、コレラの感染の原因を「感染地図」の作成によって突き止めたことが、その誕生のきっかけである。
- 5 「疫学」は、大勢の人の健康を向上させるためにさまざまな活動を行う公衆にとって重要な分野のことであるが、現在、その分野を専門とする人が少ない。

問四

「切り離しても重要な分野」(線部イ)とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「公衆衛生」は重要性が認識されているにもかかわらず、専門的に学んでいる人が少ないので、今後発生しうる新たな感染症に向けてより推奨されるべき分野であるということ。
- 2 「公衆衛生」は「疫学」があるからこそ成立する学問なので、同じように新興感染症を研究している「疫学」と切り離して考えることができない分野であるということ。
- 3 「公衆衛生」は群衆の健康向上のための活動をしているので、新たな感染症が発生しているかどうかに関係なく、人々の健康を守るという点で必要な分野であるということ。
- 4 「公衆衛生」は感染症以外にも、健康問題にかかわる活動を行っているので、専門家が少なくと守備範囲を広くすることが非常に困難になる分野であるということ。
- 5 「公衆衛生」は感染症だけでなく、人間の命に関わる様々な病気の治療法を研究しているので、新たな感染症の有無に関係なく重要視されるべき分野であるということ。

問五

「感染をかなりうまく押さえ込めた」(線部ウ)とありますが、それは何のおかげですか。最も適当な言葉を本文から、八字以上十字以内で書き抜きなさい。

問六

「なんとなく納得させられます」(線部エ)とありますが、筆者がそう考えるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 昔の結核の流行と新型コロナウイルスの流行の状況が似ていることにより、新型コロナウイルスへの対応や治療がいままで最も迅速にできたと考えられるから。
- 2 新型コロナウイルスの感染がある程度抑えられたのは、状況がかつての結核の流行とあらゆる点で似ていたため、保健所が経験豊富な窓口として機能したと考えられるから。
- 3 原因はわかっているが、その治療法がないという状況は、かつての結核の流行と似ているため、その対応のためにほとんど準備は必要なかったと考えられるから。
- 4 新型コロナウイルスの感染がある程度抑えることができたのは、かつての結核流行と似た状況であり、保健所が同じような経験をしていたおかげであると考えられるから。
- 5 結核が流行した際に、特效薬が開発されるまでは保健所が窓口となって対応していたため、新型コロナウイルスの対応も保健所がすることになったと考えられるから。

問題は、裏面に続きます。

問七

「ダブルメジャーはどうでしょう」(――線部オ)とありますが、筆者はなぜ「ダブルメジャー」を提案しているのですか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 定期的に保健衛生の研修を受けることで、ふたつめの専門として医療に関わる資格を得られるため、パンデミックの際にも十分な人員で収束にむけて活動することが可能だから。
- 2 普段から保健衛生を学んでいる人員がいることで、感染症が流行し多くの人手を必要とする場合であっても、十分な数の専門知識を持った人員で対応に当たることが可能だから。
- 3 日常的に保健衛生に関する教育を受けることで、感染症が流行した場合に必要な専門的知識を持った十分な数の人員を、普段から保健所に配置することが可能になるから。
- 4 普段の仕事に加え、感染症専門医と同様の知識を学ぶことで、パンデミックのようないざという時にも、自分の専門性を活かすことができる十分な人員を得ることが可能だから。
- 5 平常時に保健衛生について勉強をしておくことで、多くの人手が必要なパンデミックの際にも、専門的な知識のある人員を派遣して、十分な人員で治療にあたることが可能だから。

問八

「指摘はとても重要です」(――線部カ)とありますが、それはなぜですか。八〇字以内で説明しなさい。

問九

~~~~線部 a ~~~~ のカタカナを漢字に直しなさい。

「二」「順吉」と「父親」とは長い間、不仲であったが家族の協力もあり、ようやく和解した。次の文章は、その日の午後の場面である。これを読んで、後の問に答えなさい。(なお、現代では不適切と思われる表現がありますが、作者の意向を尊重してそのままにしています。)

午後、父だけは少し酒に酔ったので少し醒まして、湯に入ってから行くというので別になつたが、その他祖母を除き、総勢七人で青山へ墓参りに出かけた。自転車の方は電車でないところは叔父と並んで歩いたが、二人の間でその日の話は何もしなかった。母とも同様だった。

自分は昨年死んだ赤児の墓の前で皆に別れ自転車で行った。Kの家へ行った。

SKは庭へ水撒きをしていた。自分はSKがそれをすまして足を洗ってくる間、母への札手紙を書いた。永い間板挟みの苦しい位置にいて、何度失敗しても父と自分との和解の望みを捨てずにいてくれたことを感謝した。それから先刻言った堀を飛び越すようなことなく、感情になんの無理もなく彼所に落ちつくことのできたのは自分には望外のことと、今度の和解は決して破れることはないと思っていることなどを書いた。

自分はその日のことをSKに話した。SKは大変に喜んでくれた。そして大変気持ちのいいこととして好意を見せてくれた。SKは、「康子さんに電報を打たないか。喜ばれるだろう」と言った。「今日父と会うということはたぶん知らないから、別に心配はしてないと思う」と自分は答えた。

しばらくすると集まる約束になつていた友が二人来た。自分はSKの家に来た時から非常に身体も心も疲れてきた。そしてそれは不愉快な疲れ方ではなかった。濃い霧に包まれた山奥の小さい湖水のような、少し気が遠くなるような静かさを持った疲労だった。長い長い不愉快な旅の後、ようやく自家へ帰つて来た旅人の疲れにも似た疲れだった。

自分は終列車に間に合うように皆と別れて上野へ向かった。我孫子の停車場では三造が提灯を持って迎いに来ていた。歩いている時、「明日は麻布の旦那様がいらつしやるそうで」と後から三造が言った。「電報が来たのか?」「三時ごろ参りました」「また小さい連中が来るからネ、お天気だったら蜷取りでもやるから、朝のうち船を自家の前へ廻しておいてくれ」「かしこまりました。それから、あしたの鳥の肉も先刻鳥屋へ行って頼んで参りました」「そうか。そうしておまへはネ、来られたらなるべく早く来て家の廻りを少し掃除しておいてくれ」

「掃除はもう皆すつかりしておきました。奥様が先に立って、内も外もすつかりできています」自分は自家の坂を登ろうとするとそこに妻が立っているのを見た。妻は黙って近よってきて自分の手を両手で強く握りしめた。

そして、「B」と言った。

翌朝自分は一人で停車場に迎に行つた。妻も行きだったが、赤児が妙に身体をピクツピクツとさしていたので、自分は来させなかった。

汽車が着いた。隆子が一番先に降りて、禄子、昌子がそれに続いた。次に父が降りて来た。自分はお辞儀した。父はなんの表情もない顔をして、「ああ」と言つて軽く頭を下げた。

自分は停車場を出るまで父とあまり口をきかなかつた。お互いに多少窮屈な感じがあつた。自分はこの窮屈な感じはそのうちにとれてくれるだろうと思つた。この窮屈を破ろうとしてない話を無理にするのはかえつてよくないと思つた。父も無理に口をきこうとはしなかつた。

皆は俥に乗つて自分の家に来た。妻が赤児を抱いて門から出て来た。父の顔を見ると妻の眼からは涙が出かかっていた。父は赤児を見ていた。

その日は自分には一日気持のよい日だった。窮屈さはすぐ去つた。陶器のこと、絵のことが主な話題だった。自分は自分の持っているわずかな古い陶器や、古い布類などを出してきて父に見せた。父は近ごろ買った軸物の話などをした。われわれは少しも退屈しなかつた。二人の間では前日のことは何も話されなかつた。しかし父は小さい連中が皆戸外に出て行った時に、「順吉も今後はまた親子として永く付き合つていきたいという希望だと言うし、それは私にとつてはまことに望ましいことなので、これまでのことはなかつたものとして、おまえもそのつもりになつていてもらわねばならん」と妻に言った。

妻は何も言わずに涙を拭きながらただうなずいていた。自分は父が前日母に言ったことをそのままここで妻に繰り返すかもしれないと父が何か言い出そうとした時考えた。そして自分は父がそれを言ったにしろ、自分は決して不快は感じないですませるといふ自信を持っていた。ところが父はそうは言わなかつた。自分は大変いい感じを受けた。自分は父に感謝する気持を持った。

「慧子はどうしたことだったかな……」と父が言った。自分たちは答えなかつた。しかし自分は慧子のことでも今は父に不快は感じていないことを自ら感じた。皆は三時少し前の汽車で帰ることにした。父は帰る時、また妻に、「これからは時々来るからね」と言った。「どうぞ、ぜひおいであそばしていただきます」「どうぞ」と自分も一緒に言った。自分は停車場まで送つて行つた。汽車は遅れた。自分は淑子に、「兄さんはこれから少し忙しいからしばらく東京へは出ない」と言った。側から昌子が見上げて、「お兄様、でも、今年中にいらつしやるでしょう? きつといらつしやいね。いいこと、きつとよ」と言った。姉たちは笑つた。昌子には何か考えがあるらしく、何度もまたこれを繰り返していった。自分はまだ満八歳にならぬ昌子の小さな心にもこの和解は決して小さくない出来事だつたに違いないと思つた。父は少し疲れたかのように見えた。しばらくして汽車が着いた。皆は乗り込んだ。父は自分のいるプラットフォームとは反対の窓

本文は、裏面に続きます。

の側に腰をおろした。妹たちは此方側の窓に重なり合って顔を並べていた。

笛がなると、皆は「さよなら」と言った。自分は帽子に手をかけて此方を見ている父の眼を見ながらお辞儀をした。父は、

「ああ」と言つて少し首を下げたが、それだけでは自分はなんだか足りなかった。自分はしかめ面とも泣き面ともつかぬ妙な表情をしながらなお父の眼を見た。すると突然父の眼にはある表情が現われた。それが自分の求めているものだった。意識せずにも求めているものだった。自分は心と心の触れ合う快感と亢奮とでますますしかめ面とも泣き面ともつかぬ顔をした。汽車は動き出した。妹たちがいつまでもいつまでも手を振っていた。長いプラットフォームを出外れて右へ弓なりに反つて此方が見えなくなるまで、手を振っていた。自分は誰もいないプラットフォームに一人立っていつまでも洋傘を上げている自分を見出した。自分は停車場を出ると急いで帰つて来た。なぜ急ぐのかわからなかった。自分は父との和解も今度こそ決して破れることはないと思つた。自分は今は心から父に対し愛情を感じていた。そして過去のさまざまに悪い感情がすべてその中に溶け込んでいくのを自分は感じた。

110

(志賀直哉『和解』による)

105

注1 青山 … 東京都港区にある青山霊園のこと。

注2 四谷 … 東京都港区の地区の一つ。父が住んでいる。

注3 S K … 順吉の友人。

注4 康子 … 順吉の妻。

注5 我孫子 … 千葉県東葛飾郡。現在の我孫子市。

注6 麻布の旦那様 … 順吉の父。

注7 俵 … 人力車。

注8 前日母に言ったこと … 順吉と父が和解したときに、父が母に対して、これまでのいさかいは順吉が悪かったと言つたことを指している。

注9 慧子 … 順吉と康子の亡くなった子供のこと。父に会わせるために連れ出した際に、亡くなった。

95

## 二の設問

問一 「母とも同様だった」(——線部ア)とありますが、次の【1】にふさわしい語句を、本文から十字で書き抜きなさい。

母は父と順吉の不仲で、板挟みの苦しい位置にいたにもかかわらず【1】いた。これまでの苦労を考えると叔父と母は友人のSKと同じようにすぐに和解を喜べるような状態ではなかった。

問二 「望外」(——線部a)について、同じ意味になる語句として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 不本意
- 2 途方に暮れる
- 3 とらぬたぬきの皮算用
- 4 手ぐすねをひく
- 5 棚からぼたもち

問三 「小さい湖水のような」(——線部イ)とありますが、次の説明文の【A】に当てはまる漢字を一字で答えなさい。

「小さい湖水のような」のように「ような」「ごとし」をつかった比喩のことを、【A】喩という。

問四 【B】に入れる語句として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 さようなら。
- 2 ありがとう。
- 3 おめでとう。
- 4 がんばったね。
- 5 ごめんね。

問五 「自分は父に感謝する気持を持った」(——線部ウ)とありますが、なぜですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 順吉は陶器のこと、絵のことなどについて話した後、古い陶器や、古い布類など出してきて父に見せたが、父は近ごろ買った軸物の話などをして、少しも退屈しなかったから。
- 2 順吉の今後はまた親子として付き合っていきたいという希望に対し、父はまことに望ましいことで、これまでのことはなかったものとしてほしいということを妻に言ったから。
- 3 順吉は父が前日母に言ったことを妻に繰り返すかもしれないと考えており、そのように父が言っても、不快にはならないと感じていたが、実際は父はそうは言わなかったから。
- 4 順吉は父から慧子について話題に出されたときに、返事をしなかったが、慧子のことについて、もう今は父に不快は感じていないことがわかったから。
- 5 順吉は父に多少窮屈な感じがあつたが、この窮屈な感じはそのうちにとれてくると予想し、また、父も無理に窮屈を破るのはよくないと、同じように考えていたから。

問六 「ああ」(——線部X・Y)とありますが、それぞれどのように感じていると考えられますか。Xは「Xは」「Yは」とそれぞれ書き分けて、六〇字以内で答えなさい。

問題は、裏面に続きます。

## 問七

「すべてその中に溶け込んでいく」(——線部E)とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なもの、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 父親とのいさかいをずっと見せてきた姉妹たちに申し訳なさがあつたが、自分が思うよりも二人の関係を気にしていなかったことがわかり、拍子抜けしたということ。
- 2 そばについていながらも、父親との和解に際して口一つ挟まなかった妻に失望していたが、すべてが解決した今となっては気にする必要がなくなったということ。
- 3 前日の和解で感じていた父への思いよりも、列車の別れ際の父親の表情をきっかけに、これまで父に抱いていた好ましくない感情を全て受け入れることができたということ。
- 4 自分の真剣な悩みを関係のない立場から冗談半分で聞くだけであった友人への怒りを抱えていたが、裏で支援をしていたことを知って感謝したくなったということ。
- 5 肉親である父親とでさえ分かり合えない自分の心の狭さにいらだちながらも、周囲の支援でなんとか和解にまでたどりついた苦労をほめてやりたいということ。

## 問八

文章の内容の説明として、最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 順吉は父親との和解によって、父との関係は破れることのないものになったと考えており、翌日、父の家で一緒に話を進めるうちにその思いはゆるぎないものになった。
- 2 康子は順吉の母親と同じように、順吉が父親と不仲であることを苦しく思っていたが、和解後に父親から今後について話された時、今までのことを思い出し、さらに悲しんだ。
- 3 順吉の父親は、和解後の翌日に順吉夫妻の家を訪れ会話を楽しんでいるように見えたが、実際は疲れを感じており、列車の別れ際までは全く気を許すことができなかった。
- 4 登場人物の短い会話文をテンポよく入れることによって、文章全体に読みやすいリズムを与え、それぞれの場面で歯切れの良い印象を与えることに成功している。
- 5 父親との関係修復は、順吉にとっての個人的な問題でとどまることはなく、家族やその周りの人々にも小さくない影響を与えた出来事であった。

↓ここにシールを貼ってください↓

|      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| 受験番号 |  |  |  |
|      |  |  |  |

|    |  |
|----|--|
| 名前 |  |
|----|--|

## 須磨学園夙川中学校 第2回入学試験 解答用紙 国語

|    |                      |    |    |    |    |    |    |    |                      |   |
|----|----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----------------------|---|
| ※  |                      | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※                    | 一 |
| 問九 | 問八                   | 問七 | 問六 | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 | (※の欄には、何も記入してはいけません) |   |
| d  | a                    |    |    |    |    |    |    | X  |                      |   |
|    |                      |    |    |    |    |    |    |    |                      |   |
| e  | b                    |    |    |    |    |    |    | Y  |                      |   |
| c  |                      |    |    |    |    |    |    |    |                      |   |
|    | 80    60    40    20 |    |    | 10 |    |    |    |    |                      | ※ |

|    |    |                |    |    |    |    |    |                      |   |
|----|----|----------------|----|----|----|----|----|----------------------|---|
| ※  | ※  |                | ※  | ※  | ※  | ※  | ※  | ※                    | 二 |
| 問八 | 問七 | 問六             | 問五 | 問四 | 問三 | 問二 | 問一 | (※の欄には、何も記入してはいけません) |   |
|    |    |                |    |    |    |    |    |                      |   |
|    |    |                |    |    |    |    |    |                      |   |
|    |    |                |    |    |    |    |    |                      |   |
|    |    | 60    40    20 |    |    |    |    |    |                      |   |

